

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735		
法人名	株式会社ジェイコム		
事業所名	グループホーム多賀の里		
所在地	愛媛県西条市北条231番地1		
自己評価作成日	平成23年10月13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載		
----------	--	--	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会		
所在地	松山市持田町三丁目8番15号		
訪問調査日	平成23年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切にし、御利用者さん1人1人が穏やかな生活が出来る様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の行事等に参加し料理作りの手伝いをする等、地域の一員として生活できるよう支援に力を入れている。また、地域の方が事業所の行事の手伝いをしてくれる等、地域の方との関係は良好である。他の事業所との相互研修に参加したり、積極的に外部の研修を受講する等、サービスの質の向上に真摯に取り組んでいる。家族に利用者の様子を撮影した写真や日常生活報告書を毎月送り、関係継続に努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 多賀の里

(ユニット名) 老丁目

記入者(管理者)

氏 名 武田 良太(目見田 恵子)

評価完了日 平成 23 年 10 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は、職員の名札の裏に記載し自分自身で確認したり日々の業務の中でその理念に近づくよう努力をしている又リビングなどに提示しユニット会等でも話し合ったりしている。	
			(外部評価) 「ご利用者が穏やかで生き生きと社会生活を営めるよう質の高いサービスを提供します」を全体の理念として、職員の名札の裏に掲載している。ユニット毎に全員で話し合っ決めた理念を各ユニットの入り口に掲示し、職員全員で理解し、日々の利用者との関わりに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員として地域のお祭りへの参加や施設での行われる行事の手助けをしてもらったりと交流を深めている。又小学生、中学生、高校生との交流にも努めている。 婦人会の方々と料理を作り、共に楽しい食事会をしている。	
			(外部評価) 田植祭等の地域行事に参加し、利用者と野菜の皮むきなどを手伝ったり、事業所のクリスマス会や餅つき等を地域の方が手伝ってくれる。地域の学生の職場体験を受け入れる等、幅広い世代の地域の方との関わりや交流を深めながら、利用者が地域の一員として暮らしていけるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方におもちを届けたり、地域の祭りでは何か役立てる事はないか話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会ではサービス向上の為様々話し合いを行っている。普段行っている事に対しての率直な意見交換サービスに対しての要望等を聞きそれに対し職員同士話し合いサービス向上にいかしている。 (外部評価) 地域の方や家族、利用者にも参加してもらい2か月に1回開催している。事業所の情報を地域に発信したり、写真を見ながら事業所の活動報告を行い、活発な意見交換がされている。「写真より映像の方がよりわかりやすいのでは」との意見をもらい、現在検討中である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 普段から関わりを持つように努め、適宜指導を受けサービス向上に努めている。 (外部評価) 運営推進会議に参加してもらう時等を利用して、意見交換や対応が困難なケースの相談をしている。介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会も含め日々、内容とその弊害を認識し、一人1人がしっかりした気持ちでどんな事があっても拘束は行わないという姿勢で取り組んでいきたいと思っている。職員1人1人が業務にあたっている又ユニット会でも話し合ったり職員同士で目配りしている。 (外部評価) 職員は身体拘束について正しく理解している。家族の同意のもとにミトンを使用していた利用者について、職員間で話し合いを行いミトンを外す取組みをした事例がある。身体拘束のない暮らしができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日頃より虐待については、注意を払っている。又勉強会を開き、スタッフ1人1人が自覚を持つようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 色々な研修に参加しスタッフに報告や勉強会などしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ホーム長・主任が十分説明している。不安や疑問点があればいつでも説明している。理解、納得出来るよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開き地域の方や利用者の家族さんに参加して頂き意見や要望など聞いて運営に反映させている。 (外部評価) 入居して間もない利用者や家族が意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに気を配っている。また、面会時等に要望や意見を聞くよう心がけており、出された意見は記録し、ミーティングで話し合いを行い対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や連絡会以外にもいつでも意見や提案をする事が出来る環境である。 (外部評価) 管理者と職員のコミュニケーションはよくとれており、日々の業務の中で意見交換が行われている。浴室のリフトを設置したり、事業所専用の車を購入する等、出された意見は代表者に伝えられ反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や講習を受けたい希望者は受講できるよう勤務変更などしている。 また資格を取得した職員は表彰をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が希望する研修を受講出来る様になっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加し感じた所、学んだ事を他のスタッフに報告している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 自分の意思を伝える事が出来る方は、きちんと聴き対応している。伝えられない方は、表情など感じ取り関係作りに務めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用を開始するまでに家族様の話を聞き、要望等を受 け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談時に何の支援が必要なのかを考えて対応してい る。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 個々の出来る事などを見極め、行動を共し、関わりを 深めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) カルテなど見て貰ったりし、日々の生活を知ってもら いどのような支援が必要かを一緒に考えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族様との連絡を密にとり、関わりを持ってもらうよ う声掛けすると共に、外出時等、馴染みの場所などへ 立ち寄りしている。 (外部評価) ドライブの途中に以前住んでいた場所の近くに立ち寄 る等、入居前の馴染みを大切にしている。また、併設 する同系列の事業所等との交流により、新しい馴染み ができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 家事や散歩など日常生活を共に行えるよう声掛け、関わりあえるよう機会作りをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とすれば、関係を断ち切らず相談を受けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意志を尊重し、支援している。	
			(外部評価) 利用者が思いや希望を言いやすいよう雰囲気づくりに努めており、入浴時や普段の関わりの中から把握しようと努力している。知り得た情報や気づきは記録に残し、職員全員で共有できるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人や家族様に話を聞き情報収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 総合的に把握出来る様アセスメントシートを作成し、職員同士が情報を共有している。有する力は十分把握できてはいないが、把握出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 本人には、どのような生活がしたいのかを聞き家族様 や職員でより良く暮らすための話し合いをし、介護計 画を作成している。	
			(外部評価) 家族の要望等を確認しながら、介護計画を立案してい る。3か月に1回の見直しを基本としているが、利用 者の状態の変化に応じて、現状に即した計画に変更す るよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の状況を記入し、情報を共有し介護計画を作成し ている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 本人の思いや家族の要望に応じて取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 本人の意向や必要性があれば、協力しながら支援して いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望するかかりつけの医療を受けている 又体調変化時は協力医に連絡しその都度受診し支援し ている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診は基本的 に職員が行っているが、状態により家族にも同行して もらう等、適切な医療を受けることができるよう支援 している。また、週1回、協力医の往診により日常の 健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調の把握に務め、医療や看護師等に報告しながら受 診なども行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時はきめ細かく病院との連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 文書を作成し入居者の家族との話し合いの場を持って 主治医と共に行っている。 (外部評価) 入居時に看取り介護については説明し本人や家族の意 向を聞いている。食事摂取が困難になったり、医療が 必要な状態になると医師と家族の話し合いで、病院に 入院となることが多いが、看取りを行った経験はある。	文書を作成し、入居時に十分な説明はしているが、食 事摂取が困難になったり、医療が必要な状態になると 入院の可能性もあることや、事業所でできることでき ないことを看取りの指針等に盛り込み、定期的に家族 の意向を確認するよう今後の取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署に来て頂き、研修したり定期的実践を身に付けるようしている。又個々に講習に参加している人もいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練や消防訓練を定期的に行っている。又災害時には、地域の方に協力して頂けるようお願いしている。 (外部評価) 消防署員の指導を得て消防訓練を行ったり、自主的な避難訓練を行っている。また、地域の防災訓練に参加している。災害時には協力してもらえるよう近所の方や運営推進会議の出席者の方にも依頼している。独自の工夫をした連絡網の作成を検討したり、3日分程度の備蓄を発注している。	地震や水害等に対して消防署員にアドバイスをもらったり、地域の方に意見等をもらいながら、現在行っている避難訓練を、より具体的に実施するよう希望したい。また、災害時に事業所ができることを表明する等、地域との相互協力体制を構築するような今後の取組みに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄時の声掛けが多きかったりする時がある。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し接している。不適切な声かけや対応をなくすために、1か月に1回のユニット会で話し合ったり振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定ができる利用者さんには思いに応えられるようにしているが思いを訴えられない利用者さんは充分支援できているかどうか分からない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人がしたい事や脳トレやハーモニカを吹くなどしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に一回、施設へカットに来てくれている。又家族の人が連れて行かれている人もいる。服はできるだけ本人と一緒に選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好きな献立などを、聞いたりしながら作っている。食事の準備などはほぼスタッフが行っている。食器洗いは、進んでしてくれる利用者さんがいるのでして貰っている。 (外部評価) 食事のメニューは各ユニットで決め、利用者と一緒に食材を買い出しに行ったり、事業所の畑で採れた野菜等を使って料理をしている。職員も利用者と一緒に食事をしている。利用者に食事の準備や下ごしらえ等、できることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は、主食と副食を食べた割合でつけている。水分もチェック表をつけており、少なければ本人の好む物を摂って貰っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後洗面台まで誘導し、声掛け、見守り、介助などをしながら個々にあった用具を使い行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は2～3時間おきに誘導したり自ら行かれる。夜間は職員1人の為、立つことや歩行が困難な人はオムツにてパット交換している。	
			(外部評価) 生活記録を参考に排泄リズムを把握し、声かけや誘導を行い可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援をしている。介護計画に沿ってオムツから布パンツに移行できた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表で、排便状況を確認している。しばらく出てないか少量のみの場合は、個々に合わせてセンナ茶服用やホットパックをしている。それでもお通じが見られない時は滴便や浣腸を看護師にして貰っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時はゆっくり入って貰うようにしているが、本人の希望やその日の体調によってシャワー浴の場合もある。	
			(外部評価) 利用者の希望により、毎日入浴することもできるよう準備をしている。入浴が苦手な利用者については、声かけのタイミング等を工夫し、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。また、重度の利用者はリフトを使用し、安全で安楽な入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調に応じた安眠や休息を取って貰っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人1人の薬は、処方箋により全員が理解出来るに、ファイリングしている。急な変更時などでは、口答と申し送りノートに記入し、職員全員が把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 行事に参加したり、外出などしたりして、色々な事により役割や楽しみなどの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個人、個人が満足出来る様に、ある程度の希望に沿えるようにしている。また、意思表示ができない人も出かけられるように心掛け実行している。	
			(外部評価) 天気の良い日は近くの神社等へ散歩したり、スーパーへ食材やおやつを買いに行っている。また、外食等に出かけたり、花見やドライブをする等、利用者の希望を聞きながら楽しい外出ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 大金は持っていないが、小遣い程度は自己管理している利用者はいる。買い物をした際、お金を出し、自分で物を購入出来る様に心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、いつでも出来る様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が混乱しない様リビングには、あまり物は置けないが季節を感じられる様花を飾ったり、ディスプレイをしている。光の刺激が強い時はカーテンを開け閉めして調整をしている。 (外部評価) 大きな窓から景色が一望でき、明るく開放感がある。窓の近くにはいすが配置され気持ちよくくつろぐことができる。デイサービスと合同で行われた運動会の楽しそうな様子を撮った写真が掲示されている。トイレや浴室は清潔に保たれ気になる臭い等はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにて1人1人が思い思いに過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は本人の使い慣れた物を持って来てもらい使用している。仏壇やテレビを持って来ている利用者もあり、落ち着いて過ごせる様に工夫している。 (外部評価) 利用者の希望や状態に合ったベッドを設置し、使用してもらっている。仏壇等の思い思いのものを持ち込み、植物の好きな利用者は草花を飾る等、利用者の好みに合わせた居室づくりがされており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう、利用者の身体機能に合わせて生活が送れる様工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735		
法人名	株式会社 ジェイコム		
事業所名	グループホーム 多賀の里		
所在地	西条市北条231-1		
自己評価作成日	H23年10月13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載		
----------	--	--	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会		
所在地	松山市持田町三丁目8番15号		
訪問調査日	平成23年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近所にある神社への散歩や買い物など外出し、地域の方と関わる機会が多い。沢山の地域の方に支えていただき、楽しませて頂いている。御利用者の笑顔が少しでも見れるよう、御利用者の思いを摘んで、したい事を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の行事等に参加し料理作りの手伝いをする等、地域の一員として生活できるよう支援に力を入れている。また、地域の方が事業所の行事の手伝いをしてくれる等、地域の方との関係は良好である。他の事業所との相互研修に参加したり、積極的に外部の研修を受講する等、サービスの質の向上に真摯に取り組んでいる。家族に利用者の様子を撮影した写真や日常生活報告書を毎月送り、関係継続に努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい		
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 多賀の里

(ユニット名) 式丁目

記入者(管理者)

氏 名 高橋 美幸 (目見田 恵子)

評価完了日 平成 23 年 10 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関やユニット内に掲示する事で意識するように、心掛けています。	
			(外部評価) 「ご利用者が穏やかで生き生きと社会生活を営めるような質の高いサービスを提供します」を全体の理念として、職員の名札の裏に掲載している。ユニット毎に全員で話し合って決めた理念を各ユニットの入り口に掲示し、職員全員で理解し、日々の利用者との関わりに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事への参加は勿論の事、施設内で行われる行事（もちつき・クリスマス会など）にも地域の方に参加してもらい、一緒になって行事を作り上げていく。	
			(外部評価) 田植祭等の地域行事に参加し、利用者と野菜の皮むきなどを手伝ったり、事業所のクリスマス会や餅つき等を地域の方が手伝ってくれる。地域の学生の職場体験を受け入れる等、幅広い世代の地域の方との関わりや交流を深めながら、利用者が地域の一員として暮らしていけるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事・イベントなどを通じて、認知症の方へ関わる機会を提供する事により、啓発・理解を深めていただく様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 御利用者の現状報告および運営状況の報告、行事などの参加の依頼を行っている。御利用者に参加して頂き、意見を述べるようにしている。	
			(外部評価) 地域の方や家族、利用者にも参加してもらい2か月に1回開催している。事業所の情報を地域に発信したり、写真を見ながら事業所の活動報告を行い、活発な意見交換がされている。「写真より映像の方がよりわかりやすいのでは」との意見をもらい、現在検討中である。	地域の方にも出席してもらっているが、その時々議題に応じた立場の方にも出席を依頼し意見等をもらい、サービスの向上に繋げることができるような取組みに期待したい。また、会議録については、出された意見や報告内容を後で確認しやすいように可能な限り詳細に記録するよう望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 普段から関わりを持つように努め、適宜指導を受け、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらう時等を利用して、意見交換や対応が困難なケースの相談をしている。介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての研修への参加や施設内で勉強会を行うことで、身体拘束廃止に努めている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について正しく理解している。家族の同意のもとにミトンを使用していた利用者について、職員間で話し合いを行いミトンを外す取組みをした事例がある。身体拘束のない暮らしができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や資料を読んで学び、ユニット会などでも繰り返し話し合っている。言葉の使い方も注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修で学び、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には不安や疑問点等を聞きながら、説明を行っている。また、入所されてからも、不安や疑問点があれば、その都度説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 色々な行事の時や来所時に声をかけ、聴くようにしている。意見箱を設置し、意見をもらうことで、より良い施設になるよう、運営へ反映させている。 (外部評価) 入居して間もない利用者や家族が意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに気を配っている。また、面会時等に要望や意見を聞くよう心がけており、出された意見は記録し、ミーティングで話し合いを行い対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) いつでも話の出来る関係であるのと同時に、申し送りの時や定期的に面接を行い、話をしている。 (外部評価) 管理者と職員のコミュニケーションはよくとれており、日々の業務の中で意見交換が行われている。浴室のリフトを設置したり、事業所専用の車を購入する等、出された意見は代表者に伝えられ反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 向上心を持って働けるよう、改善している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受けてもらったりや施設内で勉強会を行うことで、学ぶ機会を作っている。各自目標を立て、半年に1回見直ししている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修での交流や法人内の事業所、他施設のイベントを通し、交流している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 声を掛ける機会を増やしたり、ゆっくりとお話することで、御本人が少しでも早く関心出来る様、関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には施設内を見学して頂き、ゆっくりと御家族 から話を聞くことで関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) よく話を聴くことで、御利用者にとって何が必要な支 援かを考え、対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 御利用者1人1人が活躍できる場を作り、職員がお礼 を言う場面作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御家族にカルテを見てもらい、どのように生活されて いるか知ってもらうことで、どのような支援が必要か を一緒に考えてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 買い物やドライブなどで近所の人に会い、お話したり と馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、努め ている。 (外部評価) ドライブの途中に以前住んでいた場所の近くに立ち寄 る等、入居前の馴染みを大切にしている。また、併設 する同系列の事業所等との交流により、新しい馴染み ができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係が上手くいく様、職員が間に入り、支えあえるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて、相談や支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人1人の思いや暮らし方の希望は日々の関わり（表情や会話）の中から把握出来るよう、努めている。	
			(外部評価) 利用者が思いや希望を言いやすいよう雰囲気づくりに努めており、入浴時や普段の関わりの中から把握しようと努力している。知り得た情報や気づきは記録に残し、職員全員で共有できるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 御本人や御家族、知人などから話を聞き、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 変化がある為、職員同士が声をかけながら、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 御本人にどのような生活がしたいか、御家族にも話を 聞き、介護計画書を作成している。	
			(外部評価) 家族の要望等を確認しながら、介護計画を立案してい る。3か月に1回の見直しを基本としているが、利用 者の状態の変化に応じて、現状に即した計画に変更す るよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の状況を記録し、話し合いを持ちながら、その都 度介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) その時の状況に合わせて、行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 神社へお参りに行ったり、美容院へ行ったりと地域資 源を活用しながら、地域の中で暮らせるよう支援して いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 御本人、家族が希望する主治医との関係が続けられる よう、支援している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診は基本的 に職員が行っているが、状態により家族にも同行して もらう等、適切な医療を受けることができるよう支援 している。また、週1回、協力医の往診により日常の 健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 御利用者の状況や気付いたことを看護師に伝え、相談 しながら、健康管理に気をつけている。受診があれ ば、支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院と連携し、行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のあり方については書類を作成し、御家族と話 し合いを行っている。ターミナルを迎えた御利用者につ いては、日々穏やかに過ごせる様取り組んでいる。 (外部評価) 入居時に看取り介護については説明し本人や家族の意 向を聞いている。食事摂取が困難になったり、医療が 必要な状態になると医師と家族の話し合いで、病院に 入院となることが多いが、看取りを行った経験はある。	文書を作成し、入居時に十分な説明はしているが、食 事摂取が困難になったり、医療が必要な状態になると 入院の可能性もあることや、事業所でできることでき ないことを看取りの指針等に盛り込み、定期的に家族 の意向を確認するよう今後の取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署にお願いし、勉強会をした。個々で研修や講習会に参加し、急変時に対応出来る様、学んでもいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に二回、避難訓練を行っている。地域の防火訓練にも参加し、災害時には地域の方にも協力して頂けるよう、お願いしている。 (外部評価) 消防署員の指導を得て消防訓練を行ったり、自主的な避難訓練を行っている。また、地域の防災訓練に参加している。災害時には協力してもらえるよう近所の方や運営推進会議の出席者の方にも依頼している。独自の工夫をした連絡網の作成を検討したり、3日分程度の備蓄を発注している。	地震や水害等に対して消防署員にアドバイスをもらったり、地域の方に意見等をもらいながら、現在行っている避難訓練を、より具体的に実施するよう希望したい。また、災害時に事業所ができることを表明する等、地域との相互協力体制を構築するような今後の取組みに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応が十分でない事がある。職員同士で声を掛け合ったり、ユニット会で言葉かけや対応について、毎回話し合っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し接している。不適切な声かけや対応をなくすために、1か月に1回のユニット会で話し合ったり振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉や表情、動作で思いや希望を表し、自己決定している。御本人の状態に合わせた対応を行い、選ぶ機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 御利用者の状態によって、職員は対応している。1人1人の希望になるべく添えられる様、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服については職員が選んでいる事が多い。御利用者1人1人に合った身だしなみを心掛けている。適時美容院へ行き、御利用者が希望する髪型にしてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物、調理、片付けなど出来る事をして頂いている。 (外部評価) 食事のメニューは各ユニットで決め、利用者と一緒に食材を買い出しに行ったり、事業所の畑で採れた野菜等を使って料理をしている。職員も利用者と一緒に食事をしている。利用者に食事の準備や下ごしらえ等、できることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人1人の状況に合わせて、おにぎりにしたり、刻んだり支援している。水分量については表を作成し、一日の水分量が少ない御利用者には、コーヒーやジュースなど御本人の好む物を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。御利用者の状態に合わせた介助を行い、口腔内の様子も観察をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人1人の排泄パターンを把握し、トイレで出来るだけ排泄が出来る様、支援している。	
			(外部評価) 生活記録を参考に排泄リズムを把握し、声かけや誘導を行い可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援をしている。介護計画に沿ってオムツから布パンツに移行できた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂ってもらったり、運動を行ったりと便秘しないよう働きかけているが、便秘の方が多い。薬以外にもセンナ茶を飲んでもらったりと、個々に応じた対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴は可能である。御本人の希望に沿って、入浴して頂いている。	
			(外部評価) 利用者の希望により、毎日入浴することもできるよう準備をしている。入浴が苦手な利用者については、声かけのタイミング等を工夫し、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。また、重度の利用者はリフトを使用し、安全で安楽な入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安眠出来るよう、個々にあわせた対応をしている。夜間あまり休まれてない時には、日中少し休んでもらうなど、その時々状況に応じた対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 使用している薬について、理解している。薬が変わったときには、様子観察ををし、変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割を持ってもらったり、ドライブや地域との関わり、楽しみを持ってもらうことで、1人1人が笑って過ごせる様支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 御利用者の希望に沿って、外出できる様支援している。普段行けないような場所でも、御家族に協力して頂きながら、出来るだけ御本人の希望に添えられるよう努めている。	
			(外部評価) 天気の良い日は近くの神社等へ散歩したり、スーパーへ食材やおやつを買いに行っている。また、外食等に出かけたり、花見やドライブをする等、利用者の希望を聞きながら楽しい外出ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持っている御利用者が居るものの、使用する事はない。所持している事で安心感がある様子。見守っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙を御自分からしたいといわれる方はいないが、電話や手紙を受け、やり取りができるよう支援は行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 音や光、温度など御利用者が居心地よく過ごせる様配慮している。季節に応じた貼り絵や花を飾ったりと、季節感を採り入れている。 (外部評価) 大きな窓から景色が一望でき、明るく開放感がある。窓の近くにはいすが配置され気持ちよくくつろぐことができる。デイサービスと合同で行われた運動会の楽しそうな様子を撮った写真が掲示されている。トイレや浴室は清潔に保たれ気になる臭い等はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合った御利用者同士で過ごしたり、ソファーや和室で過ごしたりと、好む場所で過ごしてもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスなどの家具を持って来て頂き、御本人が落ち着ける場所作りを行っている。仏壇を持って来ておられる御利用者もあり、毎朝お供え物をしている。 (外部評価) 利用者の希望や状態に合ったベッドを設置し、使用してもらっている。仏壇等の思い思いのものを持ち込み、植物の好きな利用者は草花を飾る等、利用者の好みに合わせた居室づくりがされており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレがわかるよう、張り紙をしている。出来るだけ自立した生活が送れる様、混乱のないよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム多賀の里
所在地	西条市北条231番地1 (電話)0898-65-6662
自己評価作成日	平成 23年 10月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々のペースにあわせて生活してもらい、スタッフが手を出しすぎず出来る限り自分で日常生活動作が行えるよう支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の行事等に参加し料理作りの手伝いをする等、地域の一員として生活できるよう支援に力を入れている。また、地域の方が事業所の行事の手伝いをしてくれる等、地域の方との関係は良好である。他の事業所との相互研修に参加したり、積極的に外部の研修を受講する等、サービスの質の向上に真摯に取り組んでいる。家族に利用者の様子を撮影した写真や日常生活報告書を毎月送り、関係継続に努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 多賀の里

(ユニット名) 参丁目

記入者(管理者)

氏 名 杉田 千恵 (目見田 恵子)

評価完了日 平成 23 年 10 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の人達と、交流を図り利用者様の暮らしが、地域社会に溶け込むよう理念を作っている。 又、名札の裏に記載し、皆で共有している。	
			(外部評価) 「ご利用者が穏やかで生き生きと社会生活を営めるよう質の高いサービスを提供します」を全体の理念として、職員の名札の裏に掲載している。ユニット毎に全員で話し合っ決めた理念を各ユニットの入り口に掲示し、職員全員で理解し、日々の利用者との関わりに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で行われている行事などは、出来るだけ参加し、交流出来るよう努めている。 夏祭りでは、地元の高校生や婦人会の方々の助けを借り、交流に繋げている。	
			(外部評価) 田植祭等の地域行事に参加し、利用者と野菜の皮むきなどを手伝ったり、事業所のクリスマス会や餅つき等を地域の方が手伝ってくれる。地域の学生の職場体験を受け入れる等、幅広い世代の地域の方との関わりや交流を深めながら、利用者が地域の一員として暮らしていけるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2ヶ月に、1回運営推進会議を行い、実際の状況について説明している。 又、それについての意見も出してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で行った話し合いや意見を聞いて、今後のサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 地域の方や家族、利用者にも参加してもらい2か月に1回開催している。事業所の情報を地域に発信したり、写真を見ながら事業所の活動報告を行い、活発な意見交換がされている。「写真より映像の方がよりわかりやすいのでは」との意見をもらい、現在検討中である。	地域の方にも出席してもらっているが、その時々議題に応じた立場の方にも出席を依頼し意見等をもらい、サービスの向上に繋げることができるような取組みに期待したい。また、会議録については、出された意見や報告内容を後で確認しやすいように可能な限り詳細に記録するよう望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者や運営推進会議などで、サービス向上に向けて連絡を取り合っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらう時等を利用して、意見交換や対応が困難なケースの相談をしている。介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) いろいろな外部での研修や月一回の、勉強会にて身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに努めています。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について正しく理解している。家族の同意のもとにミトンを使用していた利用者について、職員間で話し合いを行いミトンを外す取組みをした事例がある。身体拘束のない暮らしができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は絶対にしてはいけない事だと認識し、虐待についての研修にも参加している。又、ユニット会などでも話し合いしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学んで支援しているがあまり理解していないスタッフもいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時や変更時に十分に説明し、納得してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見、不満、苦情を言える利用者様に対しては、管理者や職員に話しており、なるべく要望に応えられるよう対応している。家族様とは面会時に、コミュニケーションをとり要望をきいています。 (外部評価) 入居して間もない利用者や家族が意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに気を配っている。また、面会時等に要望や意見を聞くよう心がけており、出された意見は記録し、ミーティングで話し合いを行い対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 面接を行い、意見を聞いている。日々の業務の中でも、スタッフの意見を聞き、上司に伝えるようにしている。 (外部評価) 管理者と職員のコミュニケーションはよくとれており、日々の業務の中で意見交換が行われている。浴室のリフトを設置したり、事業所専用の車を購入する等、出された意見は代表者に伝えられ反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 面接の時に、話は聞いている。改善に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 自己目標を立ててもらったり個々の力量、勤務年数などを把握し、研修をうけてもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他の事業所と一緒に研修に参加する時は、同じ車で行くようにし、職員同士が交流を図れるようにしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族様と、コミュニケーションを多くとり、利用者様が不安なく施設に馴染めるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前より施設を見学していただいたり、家族様に、 会うたびに要望などを聞き関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人・家族様とコミュニケーションを多くとり、必要 としている支援について話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者様一人一人、出来る場を作り一緒に行ってい る。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ユニット内での行事（夏祭り、クリスマス会）など、 家族の方に参加してもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 携帯電話で、家族様と話をされたり、同じユニット だった利用者様に、逢いに行っている。 (外部評価) ドライブの途中に以前住んでいた場所の近くに立ち寄 る等、入居前の馴染みを大切にしている。また、併設 する同系列の事業所等との交流により、新しい馴染み ができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者様同士が、同じテーブルの席に座ってもらったり、みんなで体操やレクリエーションなどで関わりをもてるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても希望があれば相談にのったりして対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人、家族様との話し合いをし把握に努めている。日々のスタッフとの会話や利用者様同士の会話の中から、できるだけ本人の希望にそえるよう検討している。	
			(外部評価) 利用者が思いや希望を言いやすいよう雰囲気づくりに努めており、入浴時や普段の関わりの中から把握しようと努力している。知り得た情報や気づきは記録に残し、職員全員で共有できるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者様や家族様との会話・関わりの中かで、情報を収集し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人1人の能力・体調などを観察し、現状を把握して1日を過ごしてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) ユニット会で、個人別に話しあいケアプランの作成を している。また 面会時には、家族様からの意向とき いている。	
			(外部評価) 家族の要望等を確認しながら、介護計画を立案してい る。3か月に1回の見直しを基本としているが、利用 者の状態の変化に応じて、現状に即した計画に変更す るよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 申し送りノートや口頭で話し、情報の共有に努めてい る。また見直しについては、その都度聞き介護計画の 見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族様の要望に、応じて取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 必要に応じて色々な方に支援してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族様の希望するかかりつけの医療を受けてい る。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診は基本的 に職員が行っているが、状態により家族にも同行して もらう等、適切な医療を受けることができるよう支援 している。また、週1回、協力医の往診により日常の 健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者様の日々の体調変化等を、医師や看護師等に報 告し、病院受診を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中、細目に病院と連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 面会時や体調に変化があった際は、家族様と良く話し あっている。 (外部評価) 入居時に看取り介護については説明し本人や家族の意 向を聞いている。食事摂取が困難になったり、医療が 必要な状態になると医師と家族の話し合いで、病院に 入院となることが多いが、看取りを行った経験はある。	文書を作成し、入居時に十分な説明はしているが、食 事摂取が困難になったり、医療が必要な状態になると 入院の可能性もあることや、事業所でできることでき ないことを看取りの指針等に盛り込み、定期的に家族 の意向を確認するよう今後の取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署に来ていただき、研修したり個々で講習に参加したり、又、定期的に勉強会もしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を定期的に行っている。災害時には地域の方にも協力して頂けるようお願いしている。 (外部評価) 消防署員の指導を得て消防訓練を行ったり、自主的な避難訓練を行っている。また、地域の防災訓練に参加している。災害時には協力してもらえるよう近所の方や運営推進会議の出席者の方にも依頼している。独自の工夫をした連絡網の作成を検討したり、3日分程度の備蓄を発注している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 十分気をつけているが、時にはできていない事がある。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し接している。不適切な声かけや対応をなくすために、1か月に1回のユニット会で話し合ったり振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自立している方は、自分で決めてもらい、毎日出来ない利用者様に対しては簡単な言葉で声掛けしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様が、どのように過ごしたいかを聴き、本人のペースで出来ることを支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望があれば美容院に行ったり、眉毛をかいてほしいと要望があれば対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理・盛り付け・下膳・方付けを一緒にしてもらっています。	
			(外部評価) 食事のメニューは各ユニットで決め、利用者と一緒に食材を買い出しに行ったり、事業所の畑で採れた野菜等を使って料理をしている。職員も利用者と一緒に食事をしている。利用者に食事の準備や下ごしらえ等、できることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人1人の食事量や水分量は、把握できています。少ない人は、好む物を食べたり飲んだりしてもらい対応しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けをしている。 できない方は、スポンジで介助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握することで、できるだけトイレで排泄できるよう支援しています。	
			(外部評価) 生活記録を参考に排泄リズムを把握し、声かけや誘導を行い可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援をしている。介護計画に沿ってオムツから布パンツに移行できた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取・センナ茶・ラキソベロン・散歩や体操等で働きかけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴が好きな方が多い為、テーブルごとで順番に入浴してもらっている。	
			(外部評価) 利用者の希望により、毎日入浴することもできるよう準備をしている。入浴が苦手な利用者については、声かけのタイミング等を工夫し、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。また、重度の利用者はリフトを使用し、安全で安楽な入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 和室やソファで、休息できる場所を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用を把握し、服薬の確認も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の会話の中などで楽しみを見つけ、散歩・外気浴・レクリエーション・歌などを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一回レストランで外食に行っている。	
			(外部評価) 天気の良い日は近くの神社等へ散歩したり、スーパーへ食材やおやつを買いに行っている。また、外食等に出かけたり、花見やドライブをする等、利用者の希望を聞きながら楽しい外出ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ユニット内では、三人お金を所持している。家計簿をつけて管理している。定期的に家族に確認してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話で、家族様と話している。手紙のやりとりはしていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングに花を飾ったり、季節感を味わってもらえるようカレンダーを作っている。 (外部評価) 大きな窓から景色が一望でき、明るく開放感がある。窓の近くにはいすが配置され気持ちよくくつろぐことができる。デイサービスと合同で行われた運動会の楽しそうな様子を撮った写真が掲示されている。トイレや浴室は清潔に保たれ気になる臭い等はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 思い思いの場所で過ごしてもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使い慣れた家具を使用したり、家族様ととった写真やドライブに行った写真を飾っている。 (外部評価) 利用者の希望や状態に合ったベッドを設置し、使用してもらっている。仏壇等の思い思いのものを持ち込み、植物の好きな利用者は草花を飾る等、利用者の好みに合わせた居室づくりがされており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手を出しすぎないように注意し、ゆっくりと声かけすることを心がけている。	